

生物図鑑

コイ科
～美しさか機能性か～

コイ科の仲間には、ニゴイ、オイカワなど沢山います。堰での魚類調査の結果でも、その多くがコイ科の魚で上位を占めています。



ひげが4本



河川堰で確認された鯉

鯉は、いろんな呼び方や分類があり、黒一色の真鯉や様々な美しい模様を持つ觀賞用の錦鯉などがあります。さらに真鯉には、野生に生きる野鯉、食用に養殖された大和鯉に分けられます。

食性は雑食なのですが、どうやら胃が無いらしく食堂から腸まで直結しているため、ずっと食事をしていないと生きられないそうです。季節柄、食欲が満たされるのは羨ましいのですが、大変でしょうね。あ、胃がないから、ずっと満たされな

いのか。

昔から薬用魚とも呼ばれ、ビタミンB1、タンパク質、脂質、カルシウムなど様々な栄養分に富む滋養食品として、あるいは甘露煮などにして、食される人も多いと思います。

コイ科のニゴイは、「似鯉」と書き、地方ではサイ、キツネゴイなどとも呼ばれています。コイに比べて体は細長く、ヒゲはコイが二対(4本)なのに、ニゴイは一対(2本)しかありません。性格は臆病で、川底で生活するのに便利のように、口が顔の下の方に付いているのでコイとしてまじよと不格好かもしれません。また、小骨が多く食用としては適さないのが、あまり人気もありませんが、逆に言えば、静かに暮らせるわけですからニゴイにとっては良くできた機能的な体なんですね。



ひげが2本



河川堰で確認されたニゴイ

河口堰周辺の散策

暑い日が続いた今年の夏も終りに近づき、肌に秋風を感じるこの季節、利根川河口堰周辺の草原の間に、かいま見る白いゆり。



清涼に白い花が咲き、川風になびくこの花も秋の訪れとともに散って、草原はより一層、秋色を

濃くしていきます。

一方、田んぼに目をやると、春先から夏にかけて忙しく泳ぎ回っていたアイガモの姿はずでに無く、こうべを垂れた黄金色の稲穂が輝いています。



近くの田んぼでは、早くも稲刈りの姿が見られます。

編集後記

ご存じですか？利根川河口堰の電光掲示板。黒部川大橋を通行するとき、千景側に電光掲示板があります。



電光掲示板には、河口堰に関するイベント・交通規制等の情報や四季折々の情報をお知らせしています。

また、その道路を挟んで反対側、管理所3階には横断幕を設置しました。この横断幕は期間により、掛け替えを行う事としております。



お車や自転車の運転にご注意のうえ、首など痛めない程度にご覧ください。

(編集担当)

地域を守る新止堰

河口堰だより

第17号

発行所
独立行政法人 水資源機構
利根川下流総合管理所
利根川河口堰管理所
Tel 0478-86-0477

平成19年9月

利根川河口堰ホームページアドレス
<http://www.water.go.jp/kanto/fonekako/index.html>

地域・ユーザーの声

インタビュー

七花会代表
保立 よし



〇七花会ではどのような活動をされていますか

初めは15人くらいでスタートしましたが、3年前くらいから、平成7・8年度の時の各地区の婦人会役員さん達の協力により、30名となり年2回、春と秋に花壇などに花を植え付けています。

春は、サルビア、マリーゴールド、スイートアッサムなどを植え、秋は、すみれ、葉ボタンなどを植え付けます。それぞれ、植え付けるまでには何度も仮植えをして丈夫な苗を育てる仕事からしています。



また、平成12年から、東庄ライオンズクラブの人達約30名と一緒に活動しようと言って下さったので、多くの仲間がで

前回の東庄ライオンズクラブに引き続き、第2弾として黒部川沿いや東庄町内にて環境美化活動を長年行っている七花会代表の保立よしさんにご協力願いました。

今回は、保立さんの文章を基に、インタビューする形式といたしました。

〇七花会の生い立ちについて

それでは、七花会がどうして結成されたかについて話します。

私は、平成7年度の東庄町婦人会の役員でした。

4町(旧小見川町、旧山田町、旧干潟町、東庄町)の婦人会役員が集まり、環境ウォッチングとって、各町の環境美化と景観を年1回見て歩く活動を行っておりまして、その年は、東庄町の笹川周辺を見ましようという事になり、町の中や駅、役場、諏訪神社、黒部川周辺の清掃状況や景観を20名くらいで見て歩き、その後反省会を開き、みなさんと感想を話し合いました。

結果は、「黒部川周辺の景観はとても素晴らしいし、清掃もいいけど、何処にも花が植えられていない、皆さん花が嫌いなんでしょうか。美しさと明るさが無い町に感じられました。」との事でした。

そこで、東庄町の婦人会役員が奮起し、花を植えましようという事になり、公共の場所の雑草を何日もかけて取り除き、まずは花を植えることから始めました。

その花を植え始めた平成7年度になぞらえて、この会を「七花会」と名づけました。

花壇作りに楽しい汗を流しています。

その他にも、夫が植えたばかりの花壇に入ると、せっかく植えた苗が抜けてしまうので廻りに竹の柵をしたり、それが抜けないように何日もかけて留めて下さったおじいちゃんや、花壇の草を取って下さるおばあちゃん達、黒部川沿いのグリーンの道にある犬の糞を掃除して下さるおじいちゃんなど、年齢・性別に関係なく多くの仲間ができました。

もしも、皆さんがそのような仕事をしている場面に出会ったら、「ご苦労様」と声を掛けて下さいね、きっと喜ぶと思います。



スイートアッサム



〇環境美化で表彰を受けたと伺ったのですが

そうです。今年6月に、我孫子市にある手賀沼親水広場水の館で、利根川下流地区河川愛護協力会より、利根川・黒部川の河川清掃や河川敷沿道に花を植える等の活動を積極的に実施しており、河川美化に貢献している河川愛護協力団体として認められ、表彰を受けました。

これを機に記念樹として桜100本を植えることとしました。

また、平成12年度から東庄ライオンズクラブより補助金をいただき、葉ぼたんを植える活動なども行っています。

〇どのようなことに苦勞されていますか

苦勞していることは特別ないんですけれども、今年のように晴天が長く続くこと水やりが大変です。

今年は、花に「がんばれ、がんばれ」



と声を掛けながら水やりをしました。おかげで枯れずにきれいに咲いてくれて、花に感謝しながらの花美化活動をしています。

〇今後の活動についてお聞かせ下さい。

どこのお家でも、門や塚の所などにたくさんきれいに花を植えてあるのを見ます。

これからも皆さん協力し、花のある美しい町そして植物や自然を大切に、ともに花美化活動をしていきたいと考えています。

〇今後の活動を新倉しております。

貴重な時間・資料を拝借させて頂きありがとうございました。



注釈 ※利根川下流地区河川愛護協力会：沿川に所在する4市町と、旧、泉の河川関係機関を協成員として、河川の美化と自然環境の保全等を目的に昭和46年に設立、各種市民団体の実施する河川愛護活動に支援を、その成果が顕著である協力団体や個人について、毎年、河川愛護期間中に表彰を行っている。

利根川下流沿川紀行

街道を見守る十三の石仏道標

住時より、利根川の水運の隆盛と共に、陸の大動脈として栄えた銚子～成田街道は、鉄道や自動車等交通機関の発達と共に現在は国道356号線となり、東総地区に於ける重要な交通網として地域の発展に寄与している。

石仏道標は江戸時代、天明3年から4年(1783～1784)にかけて銚子市の飯沼観音(圓福寺)の住職・真永法師が願主となり、飯沼観世音(坂東27番)も山門中央から現在成田市下総の滑河観世音(坂東28番)仁王門までの一里ごとに、十三の石仏を刻して建立したものである。通信や情報が皆無に等しい当時であった、この道標が旅人はもとより、近郷近在の人々の心に無限



飯沼観音(圓福寺)



滑河観音(仁王門)

の安らぎを運んだであろうことは想像に難くない。

二里石仏道標については、平成9年4月に大木篤氏(銚子市在住)を中心にして、地元有志諸賢のご努力により、埋没していた石仏を発掘し現状回復されたことは、永久に記録に残る快挙で、深く敬意を表する次第である。



二里石仏道標

六里石仏道標については、十数年前に発生した交通事故の際、加害者が石仏を新造して安置した。旧石仏は現在行方不明のままである。

十三里石仏道標については、滑河観音(龍正院)を訪ねて問うたところ、国道356号線拡幅工事の前には、現在の信号機の迎りの小堂の中に安置されてあって、着工の際に取り壊されたという。工事終了後は信号機の側に安置されていたが、いつの間にか盗難に遭い、現在も行方知れずとのことである。

石仏道標は、先人の崇高な悲願と豊かな英知とを秘めた貴重な遺産である。

小見川文化協会郷土研究部会員
福本 志英

短信・河口堰

河口堰フェスタ2007 報告



水の週間に併せて、利根川河口堰管理所では8月4日(土)に、同じ東庄町にある東総用水管理所と合同で、当管理所構内を一般開放し、地域を守る潮止め堰として果たしている河口堰の役割や、東総広域水道事業団に水を供給し、地域の田畑を潤している東総用水のPRを行うとともに、地域に親しまれる水資源・河口堰を目指し、「水の大切さ」をテーマとし、「河口堰フェスタ2007」と銘打って、水の週間イベントを開催し、250名もの来場者を記録しました。

当日は、晴れておりましたが台風5号へ吹き込む風が強くなり、担当者は朝早くから気象情報を気にしておりました。案の定、強風でテントが飛ばされそうになり、設営を断念したのもありました。こんな強風注意報が発令されている中で船を航行させる訳には行かず、お客様には申し訳ありませんでしたが、午前の船上施設見学は中止とさせていただきます。午後からは風が弱まったことから、予定どおり船上施設見学を開催しました。

子供から大人まで学習できる水質検査体験・降雨量体験や船上施設見学・操作室見学を実施するとともに、1階の展示・説明ホールにて各種パネルの展示やビデオの上映を行いました。また、初の取組としてスタンプラリーを行いました。水質検査体験では、今年はいじめてお客様に家の周りや池・川などで採取した水をペットボトルなどに持参いただき、水質実験(COD測定)を行う試みと、ペットボトルに砂などを詰めたスタッフ手作りの簡易な濾過装置により、濾過実験を行いました。ペットボトルの上から入れた泥水が濾過され、下から透明な水が出てくると子供さんからは、「すごい」と歓声が上がっておりました。



また、降雨量体験では、カサもささずに通り抜けし、びしょぬれになりながらもはしゃいだり、何度もぐり抜け涼しさを満喫する子供さんも見受けられました。一方、親水コーナーでは、水鉄砲の制作に親御さんの手を振り払い、一人で自作に挑戦するお嬢さんや、いろいろなシャボン玉を飛ばしてはしゃいだり、ヨーヨー釣りに夢中になり、いびつなボールを投げて遊ぶ子供さんなど、心ゆくまで水と親しんでおられたようです。



操作室見学では、3階窓から見える利根川やその周辺の景色、台風5号により河口堰水門が全開している状態を見たり説明を受けたりし、しきりに感激されているお客様が居られました。



船上施設見学は、午後から2隻の巡視船で延べ10回の航行を行い、水門の下をくぐっては、その大きさに驚いていました。

展示・上映コーナーでは、常設しているパソコンのクイズに熱中するご家族連れや、昭和の水郷風景の写真を懐かしそうに見ている年配の方が居られました。

東総用水コーナーは、東総用水管内を示す大きな航空写真を展示しました。自分の家や学校を見つけては、あったあったとはしゃいでおりました。

各水道事業者との情報交換会

利根川下流水源対策協議会(5水道事業体の協議会)と利根川河口堰との情報交換会を6月21日(木)、利根川河口堰管理所にて開催しました。

水道水源になっている黒部川貯水池の現状や問題点について報告するとともに、今後の水質改善に向けての取り組みと、利根川河口堰の情報提供の在り方等について意見交換を行い、黒部川貯水池の水質改善の取り組みの一環として地域への啓蒙活動の取り組みを行う事を決めました。

